

# 印籠

原羊遊斎作「芦鶴蒔絵印籠」／河野春明作「田毎月鏡蓋根付」  
写真提供：蒔絵博物館 <http://www.makie-museum.com>



日本の知恵、  
プラスチックの知恵

戦う男たちの健康を守った印籠

「この紋所が目に入らぬか!」と、毎回同じような場面で登場するものといえば、水戸黄門様の印籠。

この印籠が初めて登場したのは、黄門様の時代より二百年も前の室町時代ころからです。元々は印判や印肉を入れていたもの。それを戦場に向かう武士たちが、応急用の丸薬などを携帯するために用いるようになって、薬籠とも呼ばれたこの印籠を腰に下げることができたのは、位が上の者に限られていたそうです。

3段から5段の重ね箱になった印籠の内部は、塗り重ねた漆の層で耐水性、防腐蚀性などの機能性をもち、胃腸薬や強心剤などの丸薬を守ったのでした。

印籠に隠された、漆の機能性。住友ベークライトの「スミライト® VSL」シリーズも、優れた防湿性、ガスバリア性などを持つ医薬品包装（PTP包装）用多層シートで、現代人の健康をサポートしています。



医薬品包装用多層シート  
「スミライト®VSL」シリーズ

プラスチックのバイオニア

**住友ベークライト株式会社**

フィルム・シート営業本部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル TEL:03-5462-4147 FAX:03-5462-4897